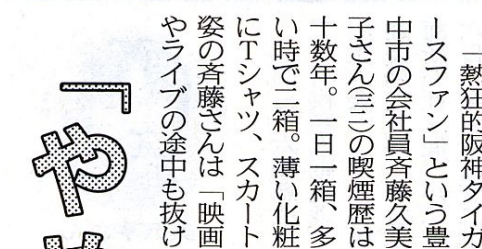
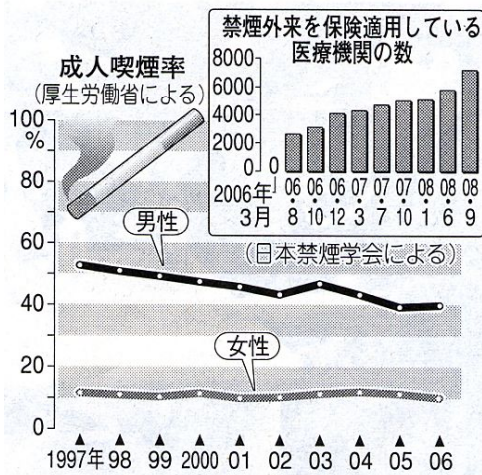


ニコタンの現場 記者がゆく

公共の場で禁煙が進み、歩きたばこも違反金の時代。厚生労働省の調査では、喫煙者のうち女性は三人に一人、男性は四人に一人が「やめたい」と考える。それでもやめられない人向けに「禁煙外来」を設ける病院が増え、全国で七千を越す。禁煙の最前線を訪ねると、新薬も開発され、効果を挙げていた。

新薬が効果 禁煙外来

「喫煙者の半分はたばこが原因で早死にすばこが原因で早死にす」といわれています。から「どんなの吸って熱く語る説明に納得。年間百人が受診するの」と聞かれ、「軽何枚ものうろこが目か大阪府豊中市の「蘭は い」と思っているたばじめクリニック」。一こを見せる。「軽い何とか吸わずにすんで時間半のカウンセリンでも体への影響は大差



「熱狂的阪神タイガースファン」という豊中市の会社員斉藤久美子さん(三三)の喫煙歴は十数年。一日一箱、多い時で二箱。薄化粧にTシャツ、スカート姿の斉藤さんは「映画やライブの途中も抜け

医師と彼氏が強力サポート

禁煙成功を喜ぶ斉藤久美子さん。右は「蘭はじめクリニック」の蘭はじめ院長。大阪府豊中市



「やめる、やめる」。軽く応じた。でも、やめられなかった。車で出掛

禁煙外来 たばこをやめたい人向けの専門外来。精神面の支援やニコチンガム、ニコチンパッチ、ニコチンを含まない飲み薬などを使って治療する。禁煙への費用は健康保険対象外で患者の全額負担だったが、2006年4月から、ニコチン依存度などの基準を満たす患者には保険適用が認められた。厚生労働省の検証調査では、規定の5回を受診した場合の禁煙継続率が、途中でやめた人より高く、効果が認められた。出して吸った」と振り返った。

「やめてほしい」。禁煙のきっかけは付き合った二年の彼氏のひと言だった。出産への影響も頭をよぎった。

「やめる、やめる」。軽く応じた。でも、やめられなかった。車で出掛

「やめてほしい」。禁煙のきっかけは付き合った二年の彼氏のひと言だった。出産への影響も頭をよぎった。

「やめる、やめる」。軽く応じた。でも、やめられなかった。車で出掛

「禁煙成功を喜ぶ斉藤久美子さん。右は「蘭はじめクリニック」の蘭はじめ院長。大阪府豊中市

「禁煙成功を喜ぶ斉藤久美子さん。右は「蘭はじめクリニック」の蘭はじめ院長。大阪府豊中市

う思い。吸い続ける現。以前は、ほおと歯茎。一年半、葛藤した。そんな時、禁煙した。友人に勧められて、六ヶ月、意を決し「最後の調べ、カウンセリングを受け。健康への悪影響や、やめられない医学的理由を聞き、飲み薬の治療を選んだ。初診の最後、蘭院長がにっこりほほ笑んだ。「やめられるまで付き合いますから」。迷いが吹き飛び、一歩目を踏み出す勇気ももたらした。

「やめたい」葛藤1年半

「すべてから解放された気分。禁煙って怖くないやん」